

小中一貫教育だより

No. 2
諏訪市立四賀小学校
R7.12.24

「また、次も会おうね！」～子どもたちの交流より～

○10月7日 1年生 交流遠足

1年生が中洲小学校との交流遠足に出かけました。中洲小学校では、四賀小の3倍の人数がいる子どもたちの様子にびっくりしていましたが、名刺交換をしながら自己紹介をしたり、作ったこまをプレゼントしたり、中洲小の子からプレゼントをもらったりして、すぐに仲良くなることができました。



○活動を紹介しよう！本の紹介・音楽会発表 2・5年生

2,5年生は、お互いの学習の様子を紹介し合いました。2年生は、読書週間にちなみ、「本の紹介」を中洲小学校のお友達に向けて作成をして送りました。また5年生は、音楽会へ向けて練習してきた発表曲を、オンラインを通じてお互いに発表し合いました。同じ学習でも、学校ごとに取り組みの違いがあり、それぞれで頑張っていることを知り、良い刺激となったようです。

○一緒に遊んで交流しよう 3・4年生



中洲小3年生と4年生は、四賀小学校まで来てくれましたので、それに四賀小学校で交流を行いました。ちょうど季節は秋。中洲小学校の子どもたちは、四賀小学校のシンボルでもある神戸山に上って、山を散策し秋を楽しみました。「こんな近くで木の実を集められていいなあ」とつぶやく中洲小学校のお友達の姿に、改めて自然に恵まれている四賀小の良さを実感した子どもたちもいたようです。

3年生は、校庭で鬼ごっこやジャンボ滑り台をし、4年生は玉入れなどを楽しみました。たくさんの人数で遊ぶことで楽しさも増してくるのか、子どもたちはとても楽しそうな様子でした。

○ものづくり交流会 6年生

6月に四賀小に来て「ものづくり科」で製作する「立体パズル」のために一緒に遊んでくれた諏訪南中の3年生の生徒が、製作した作品を持って再び四賀小に来てくれました。一緒に遊びながら、中学生の作品の技能の高さに驚き、プレゼントしてもらう喜びを感じることができました。また、中学校での生活の様子を聞くこともできたようです。ものを通して、小学生と中学生の交流を深めることができました。



○オンライン学習 6年生

6年生は、中洲小の子どもたちと一緒に、中学校数学を見越したジョイントカリキュラム授業を受けました。小中一貫教育推進教員の荻原先生の授業に真剣に耳を傾け、中洲小学校の友達の様子も意識しながら、授業に取り組むことができました。



○12月3日 目指せ！よりよい交流活動！！「諏訪市子ども会議」



諏訪市子ども会議に児童会四役と5年生代表が参加しました。諏訪市内の10の小中学校の代表者が参加し、それぞれの中学校区で行われている交流について意見を交換し合いました。南部地区の四賀小学校では、役員の児童が相談して、自分たちが行っている交流の良さとして、中学生と一緒に行った「あいさつ運動や陸上練習交流」を挙げ、また課題として「南中学校生とのものづくり交流」を決めだし発表しました。あいさつ運動の良い点は、「中学生のお手本の挨拶を見ることができた。」「顔と顔を合わせて挨拶ができるので、気持ちよく学校生活が送れた。」といった点で、ものづくりの課題点は「もっと一緒に遊んだり話したりする時間があると良かった。」「6年生からもお礼として何かプレゼントができると良かった。」などと考え、発表しました。今年は、あえて違う中学校区の人たちでグループを作り、話し合いの場を持つ試みがあり、参加した子どもたちにとっては、自分たちの中学校区の良さを改めて実感したり、課題と思っていた点の解決の見通しが持てたりする場となったようです。

○11月20日 木遣り体験 4年

小学3・4年生の音楽の学習に「日本の伝統音楽」が位置づけられています。中洲小学校では以前より、この学習の一環として「木遣り」を体験していたのですが、今年から地域教育コーディネーターが橋渡し役となって「木遣り保存会」の皆様と繋がることができ、本校でも4年生が木遣り体験を行うことができました。木遣りについては知っている子が多くたのですが、やはり自分が経験したことではなく、初めは、大きな声を出すことに抵抗感を持っている様子がありました。しかし、時間が経つにつれて、一生懸命声を出し、最後は一人で発表する姿もありました。地域の伝統音楽を、身近に感じることができた学習となりました。



「子どもの笑顔が広がる小中一貫教育校に向けて」～職員研修～

◆職員研修(授業公開・講演会)◆

今年より、春・秋・冬の計三回、各校において、授業公開そして研究会・講演会を実施しました。ペアやグループでの子どもたちの対話に焦点を置き、子どもたちが友達の意見や考えを取り入れながら、自分の考えを構築していく姿「学び合い」について、研究を重ねてきました。友達に「分からぬ」ことを素直に伝えたり、友達のその困り感に寄り添って一緒に考えたりする活動は、自分の考えを構築していく姿だけでなく、共感的な人間関係の育成へも繋がっていきます。子どもたちの具体的な姿をもとに、学校も立場も経験も異なる三校の職員が一緒にになって、意見を交換しあったことは、貴重な研修の機会となりました。また、中心講師として、一般社団法人麻布教育ラボの村瀬公胤先生をお呼びし、講演会を設けました。村瀬講師には三校で進めている「学び合い」の学校づくり



について、ご指導いただいています。私たち職員の研修が、子どもたちの笑顔が広がる小中一貫教育につながるようこれからも研鑽を重ねていきます。